

令和4年度 第2回鶴岡市健康なまちづくり推進協議会会議録（概要）

- 日 時 令和5年2月7日（火）午前10時から午前11時30分
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センターにこ♥ふる 3階大会議室
- 次 第 (1) 令和4年度健康課事業の実施状況について …資料1
(2) 市民健康意識・行動調査について …資料2・資料3

- 出席委員
高橋実沙希、蘆野吉和、七森玲子、藍陽子、秋山美紀、千田洋子、佐藤まさ子、齋藤邦夫、
佐藤しおり、庄司弘子、長谷川清

- 欠席委員
福原晶子、毛呂光一、鈴木千晴、伊藤真司、梅津彰紘、脇山拓

- アドバイザー 慶應義塾大学医学部教授 武林亨

- 市側出席職員
健康福祉部長 渡邊健、健康福祉部次長（兼）健康課長 伊原千佳子、健康課主幹 菅原青、
藤島庁舎市民福祉課長 長谷川郁子、羽黒庁舎市民福祉課長 成沢結花、櫛引庁舎市民福祉課長
佐藤栄一、朝日庁舎市民福祉課長 佐藤智井、温海庁舎市民福祉課長 加藤早苗、健康課長補佐
齋藤啓、健康課長補佐 鈴木美幸、健康課母子保健主査 佐藤まゆみ、同課母子保健主査 伊藤
佳奈子、同課成人保健主査 小細澤邦子、同課成人保健主査 武田幸士、同課成人保健主査
児玉奈美、同課高齢保健主査 五十嵐信子、同課高齢保健主査 佐藤恵美子、同課保健総務主査
吉野崇子

- 公開・非公開の別 公開

- 傍聴者 なし

（事務局）

本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。それでは次第に従いまして進めさせていただきます。

1. 開会（健康課長）

おはようございます。

本日はお忙しい中、委員の皆様方からご出席をいただきまして誠にありがとうございます。また、アドバイザーであります武林先生からも、会場の方にお越しいただき開催できましたこと、大変ありがたく思っております。

それでは、ただいまから令和4年度第2回鶴岡市健康なまちづくり推進協議会を開会いたしま

す。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 会長あいさつ

皆様から情報をいただきながら成長していきたいと思います。日々、何事にも健康が一番だと感じています。本日はよろしくお願いいたします。

(事務局)

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。ここからは、設置要綱第6条の規定によりまして、会長に議長をお願いいたします。

会長よろしくお願いいたします。

○議長：

それでは、レジメに沿って進めたいと思います。

3. 説明・意見交換

(1) 令和4年度健康課事業の実施状況について 資料1
—事務局説明—

○議長：

今の事務局の説明に対して質問はありませんか。それではまた後で、時間を設けていますので、その時またよろしくお願いいたします。

(2) 市民健康意識・行動調査について 資料2・資料3
—事務局説明—

○議長：

それではただいまの事務局の説明に対して何か質問はありませんか。

○委員：

今回の対象は16歳からということで、いろいろ質問も見直していただいですごく改善されていると思います。ありがとうございます。またクロス集計をすることで、どのような属性の方がそう答えるのかが見えてくると面白そうだなという質問もあり、結果を楽しみにしているところです。質問ですけれども、その他という選択肢が何ヶ所かあると思うのですが、自由記載というか、その他には追加で何か答えていただくような欄を作られるのかどうかを、ご説明あったのかもしれないのですが、お願いできればと思います。

○事務局：

前回の調査票を踏襲しておりますが、その他に記載する欄はなく、自由記載的なものはありませんでした。書いてくる方はいるようで、ご記入くださいといった案内する予定ではないのですが、書いたものを打ち込んでデータ化はしています。

○委員：

スマートフォンの場合も、その他にチェックするとその下に書きたい人は書けるという括りになっているのでしょうか。

○事務局：

スマホ版はこれから作成する予定になっており、逆にそういったものを作った方がいいのか

どうか、ぜひご意見をいただければと思います。

○委員：

項目によると思いますので、解析をされる先生とご相談でいいと思いますが、問13の現在の体重を落としたいかというところは、この減らしたい・維持したい・増やしたい以外に、その他というのは一体何があるのかなというのが気になりまして、逆にその他にチェックされると困る、解析が困るようなものは、なくす方がいいのかなと思った次第です。

問21の追加はすごく良いと思います。コロナでどうなったのかというのを把握する以外に、回答が前で答えたものと矛盾している方がいた場合に、その扱いをどうするのかというところは悩むところではありますが、回答者がちゃんと真面目に回答しているのかどうかをチェックするという意味でも、こうした質問の追加というのはいいのではないかなと思います。

○委員：

コメントが4つです。

アンケートというのは現状把握という面が一つあります。もう一つは、アンケートを書きながら意識づけをするというところがあるかと思う。それから、アンケートの質問項目で誘導するという面も少しあります。そういった意味では、やはり先ほどの「その他」というところの記載は非常に重要で、我々もいろんなアンケートをとっていますが、やはりその他の項目でいろいろ書いてくることの方が非常に参考になり、データがいろいろ数値で出てきますが、その他の項目というのは非常にいろいろなニーズとか、或いは価値感が入ってくるので、そこはアンケートを取った場合には重視され、我々としては、こういったことをもうちょっと考えなければいけないという意識になりますので記載があった方がいいと思っています。

問7の健康のために気をつけていることの中で、かかりつけ医という問題が結構重要になっているので、これがあるということは非常にいいと思うのですが、健康のために、特に高齢者、60歳以上でもいいと思いますけど、社会参加というのが非常に大きなフレイル予防の因子になっていますので、その項目がないですね。問7の3、この中に一つ社会参加、社会活動をしているかどうか、1つ入れた方がいい。それだけが抜けていると思いました。

それからもう一つ。コロナの問21、今、色々なデータが色々なところから出されたのですが、最近、東大の飯島先生が、コロナ禍で実際に高齢者のいわゆるフレイル状態がどうなったかという調査のデータが少しずつ出ていて、半分ぐらいはかなりフレイル状態が進み、半分は変わらないというデータが出ていて、これは実際の測定結果も含めてですが、こういった項目というのはあっていいかなと思っています。

それからもう一つ。最近の健康の概念自体がもう合わないのではないかな。具体的にこれから令和6年、7年、もう後期高齢者、団塊世代が75歳を超えるという時期になっていて、65歳以上の高齢者人口が半分ぐらいになっていく状況にどんどんなっています。その中で、今までの健康という定義で考えると、85歳以上超えると明らかに介護を受ける人がどんどん多くなっていく状況ですが、今、健康寿命を延ばすという形で、今の健康という定義で健康な人たちだけを皆さん念頭に置いているのですが、その不健康寿命介護を受ける人たちは不健康なんですよね。

不健康寿命は女性で12年、男性で9年ぐらいに縮まりましたね。10年ぐらいある。その中でもそういう人たちはやはり健康で生きていきたいと思っている。それは当然だと思う。精神的、社会的、或いは心理的、身体的なもので何か劣っている、障害を持っていくので、そこが

介護を受ける形で不健康になってくる。そういった状況の中が必ずそれを迎えるという、病気で亡くなる人はだんだん少なくなって、寿命で死ぬというかたちになってくるので、今の健康定義は1946年にWHOで作られたもので、それがそのまま今の時代、要するに病気で早く死ぬような時代に作られた健康の定義が今あって、日本は特に平均寿命がどんどん伸びていて、そう定義すると定義に合わない人がたくさん出てくる中で、将来やはり介護を受けていく、介護を受けている人がどんどん多くなっていくわけですよね。

健康を意識づけるために、介護を自分たちが受けると考えたことがあるかどうかという項目の一つを入れていただくと、介護を受ける期間があるのだということは念頭に置いて、これまでWHOの定義を健康である定義に合わせる質問について、ちょっと考えるということになると思うので、一項目だけ、自分たちが将来介護を受けることを考えたことがあるかどうか、入れていただくといいのかなと思う次第です。

○委員：

意識づけっていうところは確かに大事で、病気を持っていたり障害を持っていたとしても、すこやかでいるというところは、ぜひ意識として持っていただきたいというのはすごくありますが、具体的に、この質問項目の中でどう入れていくかっていうところは、難しいところもあるのでぜひ検討していただけたらいいと思っています。

もう1点いいですか。これはご検討いただければということですが、問9の(2)のがん検診のところなのですけれども、この1年間で受けたがん検診は次のどれですかとあるのですが、大腸癌検診は便潜血と内視鏡も含んでいらっしゃると思うのですが、なかなか一般の人は、便を出してるものが大腸癌検診だと必ずしも認識していない人が結構多かったりすると思うのですね。それで特に今回16歳以上ということで、対象年齢が下がるということ、でそもそもがん検診というのが何を指しているのかってわからない方も随分対象者に含まれてしまうのかなと思いますので、それぞれのがん検診をかつこで簡単に、何とか何とかなど、例えばバリウム検査、胃内視鏡検査などみたいな、何か具体的にイメージできるものを、ちょっと追加していただく方がより正確な回答が把握できるのかなと思いました。

○議長：

今回、16歳から対象年齢になるということでしたので、うちの孫が17、18、20歳なものですから、なかなかスマホを持つとゲームばかりして、ばあちゃんやっという言葉も成長とともになくなった。それなので、できれば1項目1行でもいいので、ゲームの時間はどの位やっていますかというのを、入れて欲しいと切実に思いましたので、ちょっと検討していただきたいと思いました。

(3) 意見交換

○議長：

それでは皆さんから意見を聞くことになっていますが、時間も限られていまして、何か聞きたいとか、この場を使ってこんなふうに行っているというのがあればお聞きしたいのですが、皆さんいかがでしょうか。

何かありませんか。なければ次に進みたいと思いますけれどもよろしいでしょうか。

4. アドバイザーによる講評

○議長：

それでは意見交換も終わったということで、アドバイザーによるお話をお聞きしたいと思っておりますのでお願いしたいと思います。

○アドバイザー：

またもし時間が開けば、皆様から現場の様子を伺いたいと思いますが、先に特に今、来年度の調査のことがありましたので、それを含めて少しお話をさせていただきたいと思います。

いろんなものがコロナの影響で、先延ばしになっていまして、この健康意識行動調査も、来年、その先を考えるための基礎資料になるわけですが、国自身がいろいろな健康づくりも含めて、少し先延ばしにしていますので、ちょうどいいタイミングで実施ができると思います。

ちょうど、今年度は国民健康栄養調査というのが行われています。先ほどご覧いただいた通りの「21 コロナの影響」というのは、実は国民健康栄養調査で同じようなことを聞いていまして、その鶴岡版ということですので、国全体の様子と、それから鶴岡市の様子、市民の様子ということで比較もできますので、それを皆さんに協力いただくことは大事だなと思います。さらに、山形県でも、ちょうど今年度、健康栄養調査をやっていますので、いつもですね、山形県が前年平成28年にやって、鶴岡の調査が29年で、1年違いであって、次回以降ですね、皆さんに両方見ていただきながら、国民全体でどう変わっているかどうか、それから山形県の中でどうかということ、全体を見ながらこの場で皆さんのいろんな意見を聞くのには、非常に大事な調査だなと思っています。非常に大事な点も議論されたと思いますけど、国全体では、皆さん聞いたことあると思いますが、健康日本21という大きな活動で、いろんなことをやっているわけですが、ちょうどこれも第三次という次の計画が議論をされています。その中で、今日ご説明いただいたそれぞれが大事ですけど、多分さらにキーワードになりそうなのが、ちょっとカタカナばかりで恐縮ですが、一つはライフコースという言葉があります。それは、生まれたときから亡くなるまでということがもっともっと強調されますので、ちょうど今日もご説明があったように、鶴岡でも、母子のところから順番にやっていきますので、それをどうやって鶴岡の計画を立てるかということが大事になり、委員が言われたような、介護はまさに最後の部分なので、どういう形でこの中に入れるか、またご相談をして考えたいと思いますが、子供のことと、自分がどういうふうに終わりを迎えるかということを通して、今まではそれぞれ担当でやっていたわけですが、よりこの健康日本21の中で強調される文脈にはありますので、そこを一緒に考えられればなと思います。

もう一つは、デジタル化です。

今日の前半のご報告の中でも、かなり鶴岡も取り組みが始まっていて、例えばユーチューブ動画の配信であるとか、母子では母子モを使ったりとか、特定保健指導についてもLINEを使い始めたりですとか、自殺対策もLINEとありますが、そういうものを次回以降はもう少し、皆さんが、会長からお話がありましたけど、逆に若い世代はそういうのだったら見てもいいよっていう世代もいますし、むしろまた皆さんからご意見いただきたいのですが、年齢が上がってからむしろスマホを使ってみると、そういうのをやってもいいよという方も大分出てきましたので、それを次回以降もっと皆さんが使いやすくするにはどうしたらいいかということ、それがこの質問の中にどう反映するかをもう一度考えてもいいかなと思いました。

事前に見ていながら今頃になって気が付いたのですが、問7の(7)というところで、「健

康についての知識や情報を主に何から得ていますか」という質問があります。これも前回も同じものを作ったのですが、今のところインターネットとただ書いてあるだけですが、これはもしかしたら皆さんからご意見をいただいた方がいいと思いますけど、例えば SNS を別にした方がいいのかとか、そういう情報のソースもかなり多様になっていますので、場合によってはこういうところを工夫してもいいのかなと。そこはかなり重要な点になりそうです。

もう一つは、今回の調査には関係ないですけど、自分の健康情報を見やすくするという流れで PHR と国では呼んでいる、パーソナルヘルスレコードと言って、自分の健康情報にアクセスできる基盤を作りなさいということも言われてきていますので、質問の中には今回の調査には反映できませんけど、そういうことも次の 5 年 10 年の計画の中では、どうやっていくかということを考える必要がありそうということだと思います。

この調査は前回も、本当に皆さんのご協力のもとに回収率が実は 90% でした。それがすごく鶴岡にとって大事で、この地域のむしろ皆さんの健康への考えを非常に反映していて、保健推進員の皆さんが、本当にまめにこう地域を見てくださっているからなのですけども、やっぱりそういう高い回答率をどうやって保つかということもとても大事で、これも単なる回答率よりも、意識づけて先ほどの話も含めて、鶴岡の健康への向き合い方っていうのを表していますので、また、同じようにこう高い回収率が期待できるのかということも、これもとても大事な取り組みの一つだと思いますので、そういう点も市の健康課の皆さんと、それからここにいらっしゃる皆さんと相談していただきながらやっていく必要があるかなと思います。

もう一つ、この第三次で特徴的なのが、先ほどのライフコースという中に、働いている人たちが、かなり前面に出るようになってきていまして、特に最近「健康経営」という言葉が流行っているのですけども、中小企業も含めて、職場での取り組みということが、今まであまり健康日本 21 の中には出てこなかったんですけども、かなり全面的に出てくるようになっていきます。このまちづくり協議会の中には、商工会議所から委員として出てきていただいていますので、今まではどちらかというところとちょっと横にいて、もう少し会社の中のことは別にやっていたと思いますけど、ますます、生まれてから亡くなるまで、そしてその間働いているところまでというのを一つの場で議論するような大きな流れになってきていますので、そういうことも、これは別途やるのかっていうことも含めて少し情報をいただきながら、この今回提案として出てきた調査を生かしながら、やっていく必要があるかなと思っております。

全体の流れとしてはそんな形で、まだこの健康意識行動調査が最終フィックスではないと伺っていますので、今日だけでなく、お気づきの点があればぜひ健康課の方にフィードバックしていただき、我々の方もアンケートの分析のしやすさと、それから大事な情報が落ちないということは、もう一度、市ともご相談したいと思っておりますので、ぜひ意見をいただければと思います。とりあえず、ここまでのところで、本日の議題に関して少しコメントをさせていただきました。また何か少し現場のご意見なども時間がある限り、伺えればと思います。ありがとうございます。

○議長：

ありがとうございました。先生から現場の意見ということでましたので、誰か、私の現場ではこうしていますということはないでしょうか。では、指名してもよろしいですか。

時間の関係上カットしてしまったものですから、もう一度元に戻りたいと思います。私たちの立場からひとことお願いしたいと思います。

○委員：

私の職場では、年1回、健康診断を行っております。

企業の方に検診車が来てくれてやっていますが、それ以外に、冬期間に健康管理センターさんで希望者が受診するというので、多い方では2回実施しております。役職のついている職員を対象にして、心の健康づくり出前講座、これもここ何年間かの間に2、3回は来ていただいているといった取り組みを行っております。

私が福祉課におるものですから、今回のこのアンケートに入れられるものなものなのかわからないのですが、今福祉施設では、コロナに対する感染に非常に力を入れているわけですが、それでもコロナになってしまう方が、必ずあります。そんな時には、まず持ち込まないということを重視して、県外に行った方とか、家族に濃厚接触者がいた場合には、利用をご遠慮いただきたいというお願いをしていますが、今世の中の動きが、マスクを外す方向にいますから、そういったお願いをすると、世の中がそうなのはどうしてそういうところは合わせてできないんだと、お叱りを受けるときもあります。市民の方がマスクをすることに対する意識がどうなのかというところを、このアンケートの中に入れてもらえたらいいのかなど。健康づくりなのかわかりませんがちらっと思いました。

○議長：

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○委員：

今は73歳、2年後に75歳になります。でも、世の中の最近、急に不景気になって、外に出ているいろんなことでも、お金が前と違ってかかるようになるので、その辺大変だなと。学区では会食会を毎年やっているが、それも300円会費をいただいて、一人暮らしの方を呼んで昼食会をやって、お楽しみ会みたいな形で。出不精を解消するため。会費を今度少し安くしてやればもっといいのかなというふうになります。

私の親が86で亡くなったが、11年間介護状態になったけれど、75から11年間、やっぱり歩けなくなるともうガクッとして出たくないみたいな、人とも話したくないっていう。それもさっき先生が言ったような、このアンケートもちょっと分けるといいかと。ただ、余りにも項目が多過ぎて、マイナンバーの項目よりもちょっと多いような。だからこれを書くのも大変だなという感じがします。もっと簡単になればというふうに思いますけども。

今まで60歳ぐらいで定年にしたわけですけども、それも65、70と、私も現役で今仕事もやっていますし、それが若さを保つ秘訣になっていますので、町内会などでも、「出不精になるなよ」と声掛けしています。それも併せて5年前から急に世の中が変わってきたように思います。

○議長：

はい、ありがとうございました。皆さん、しっかりと意見をお持ちで、もっとお話ししていただければよかったと思いました。それでは、事務局にお渡ししたいと思います。

○事務局

急な次第の変更にもご対応いただきまして、ありがとうございます。本来でありましたら皆様から一言ずつちょうだいしたいと考えていたのですが、申し訳ございません。熱心にご協議をいただきまして、ありがとうございます。

それでは以上をもちまして、意見交換を終わらせていただきます。

5. その他

○委員：

皆さんのお手元に緑色の冊子をお配りさせていただいておりますブーケと書いてあるものですが、私どもからだ館が、昨年 15 周年を迎えまして、15 周年の記念誌ということで出ささせていただきました。

2007 年の 11 月に、百けん濠があります鶴岡タウンキャンパスの中の致道ライブラリーという図書館の中に、ひっそりとからだ館という場をオープンして 15 年が経ちました。

こちらの冊子ですけれども、鶴岡でがんや難病と向き合いながらも、人生を前向きに生きているステキな方々のインタビューをスタッフがしまして、まとめたものになります。私たちの歩みもちょっと後ろの方に載せていますが、読むと元気をいただけたと思うので、ぜひ読んでいただくとともに、皆様の周りでもしこういう場を必要にしているという方がいらっしゃったら、こうした情報を届けていただけたらありがたいなと思っております。

からだ館がどんなことしているのか具体的などころをなかなか知っていただく機会がなかったもので、お配りさせていただきました。

○委員：

最近コロナの発表の仕方が庄内保健所扱いというような発表に変わってからですけども、2 月 3 日に山形県で 250 名、庄内保健所扱いで 13 名、2 月 4 日が 20 名、2 月 5 日が 18 名、昨日は 4 名感染というような、何かちょっと信じられないような数字ですけども、感染したという報告が何かなくなったのかなという感じがします。そこのお話をお聞きできればと思います。

○委員：

全数把握の見直しというのが去年の 10 月始まって、その内容というのは、65 歳以上の方とか妊婦とか、それから例えば治療が必要な人は発生届を出す、その発生届の数がいわゆる今さっきの 15 とか 4 とかですね。1 とか 0 とか最近ちょっとありますが、その数なのですね。特に高齢者施設でクラスターが発生すると、当然発生届の数が増えてきて、それが土日だと医師がいないで、発生しても発生届が月曜日になってくるということもあり、その発生届の数だけで全体の数を把握するということができないということなので、数値の変動はコロナが地域の中で感染が減ってきているかどうかの判断には結びつかない。そのほかに、医療機関を受けて診断された数がもう一つあって、自己検査キットで自己検査をした結果を医療関係者がいるところに登録できます。基本的にはこの三つの値が実際に近い。

山形県はちゃんと登録しているようなので実際に近いですけども、検査もしない、それから医療機関を受けないという人もいるということで、今は全体、実数ではないのですが、山形県の中で、大体、前は四分の 1 が庄内、でも去年の 1 月からは庄内が一番多く、ずっと独占状態になっていて、山形県全体が今、例えば昨日 80 だとすると、今までは 20 ぐらいが庄内だったので、3 分の 1 ぐらいが今庄内で一番多いんですね。昨日は、今のところ 20 ぐらい、全体では 1 日前の数字でやっと 100 を切るようになってきた。

全国で比較する時に、直近 1 週間 10 万人当たりの新規発生者数、1 週間前のデータの人数を合わせてその人口で割った数というのが出されていて、今山形県では、昨日おとといあたりは 200 を切り始めたというところで、実は庄内は少なくはなっているけど、直近 1 週間なので今のところ 210 から 220 くらい、ここ 3、4 日残念ながら変わっていない状況で、下がってはいけません。やっと 1,000 ぐらいから下がってはいるけど、まだまだ多い状態が続いている。

何が言いたいのかというと、下がってはきているけど、まだまだ多い状態が続いている中で、今はまだ感染力が高いので、いわゆるエアロゾル感染で、環境の中でウイルスが漂って感染することが結構出てくるわけですが、風邪よりも致死率は低い、インフルエンザよりも低い状況です。ただし、今高齢者施設だと、それをきっかけに隔離すると、それをきっかけにみんな弱って亡くなってしまうという状況もあって、死亡者が今多い状況です。食べられなくなったり、誤嚥性肺炎とか、コロナと直接ではなくて、間接的にコロナが影響して、かなり弱って亡くなるという状況が今あるので、高齢者にとって今隔離すること自体が本当にいいかどうかというのは、だんだんちょっと考えなければならないと思っている。認知症の方がたくさんいるような施設で、例えばたくさん感染が起こった場合、むしろ隔離しないほうがいいと。全員かかった方が早く収束するというようなアドバイスしています。

やはりコロナ自体をも恐れ、環境によってかかりやすいとか。要するにかかっている人はマスクをする、そうでないところは普通に生活することを、普通の社会活動を今後どんどんやっていく方向で知恵を働かせる時代になってきたということなので、今回の健康づくりの体操とかですね、ああいったところも、特に換気に十分に注意していただいて、やっぱりやっていく方向で、少しいろいろ考えて動き出していった方がいいかなという時期が今の時期です。

まだ庄内地域ではちょっと気を付けていただきたいけれど、何を気をつけたいかということ、やはり換気です。狭いところの換気状態ををしっかりと、新しい空気が入ってきて、それが外に出てウイルスが薄まって、かかっても2、3人というような状況で、色々社会活動が始めるような工夫をどんどんしていった方がいいというふうに思っています。そういった換気などについては、要請があれば、場所を見ながらこういった換気がいいよといった話ができますので、その辺りは相談できればいいと。鶴岡市からの要請でもいいです。とにかく、みんなが今まで通りの生活、いわゆる社会活動ができるような、知恵をやはり、どんどん働かせなければいけないと思っています。

6. 閉会

それでは、会議終了の予定の時刻となりましたので、以上をもちまして、第2回鶴岡市健康のまちづくり推進協議会を終了させていただきます。

皆様どうもありがとうございました。